

パッカー車の迫力に歓声

田子浦幼稚園

岳陽産業がリサイクル教室



パッカー車に段ボールを投げ入れる園児たち



プレートで押し込まれる様子を間近で見詰めた

富士市立田子浦幼稚園でこのほど、ごみリサイクル教室が開かれた。一般・産業廃棄物処理業の岳陽産業(川成島)の望月茂代表らを講師に招き、年中児がリサイクルやごみを収集するパッカー車について学んだ。

リサイクルの仕組みが伝えられた。では、段ボールとペットボトルを例に説明を受けた。回収された資源は工場で分別され、さまざまな商品に加工されて再び流通。段ボールはトイレットペーパーや再生紙、ペットボトルはカーテンや衣類に生まれ変わることが伝えられた。

パッカー車の説明では、中身が空の状態の荷台を確認した上で、段ボールの投げ込みも体験。大きなプレートが動いて段ボールが荷台の中に押し込まれていく様子を間近で見学すると、その迫力に歓声が上がった。

「幼稚園はSDGs(持続可能な開発目標)の視点を取り入れた幼児教育に取り組んでおり、特にリサイクルに力を入れている。今回の教室は同園に望月代表の孫が通っていることから開催を打診。同社にとっては初の試みだという。大石久美子園長は「幼稚園はSDGsを

学ぶ種まきの段階。ごみの減量やリサイクルできるごみがあることを知る第一歩になれば」と期待。望月代表も「リサイクルは今後の生活に大きく関わるテーマ。まずはリサイクルという言葉をその意味を知り、成長の中で興味を持ってほしい」と思いを語った。

と期待。望月代表も「リサイクルは今後の生活に大きく関わるテーマ。まずはリサイクルとい

う言葉をその意味を知り、成長の中で興味を持ってほしい」と思いを語った。